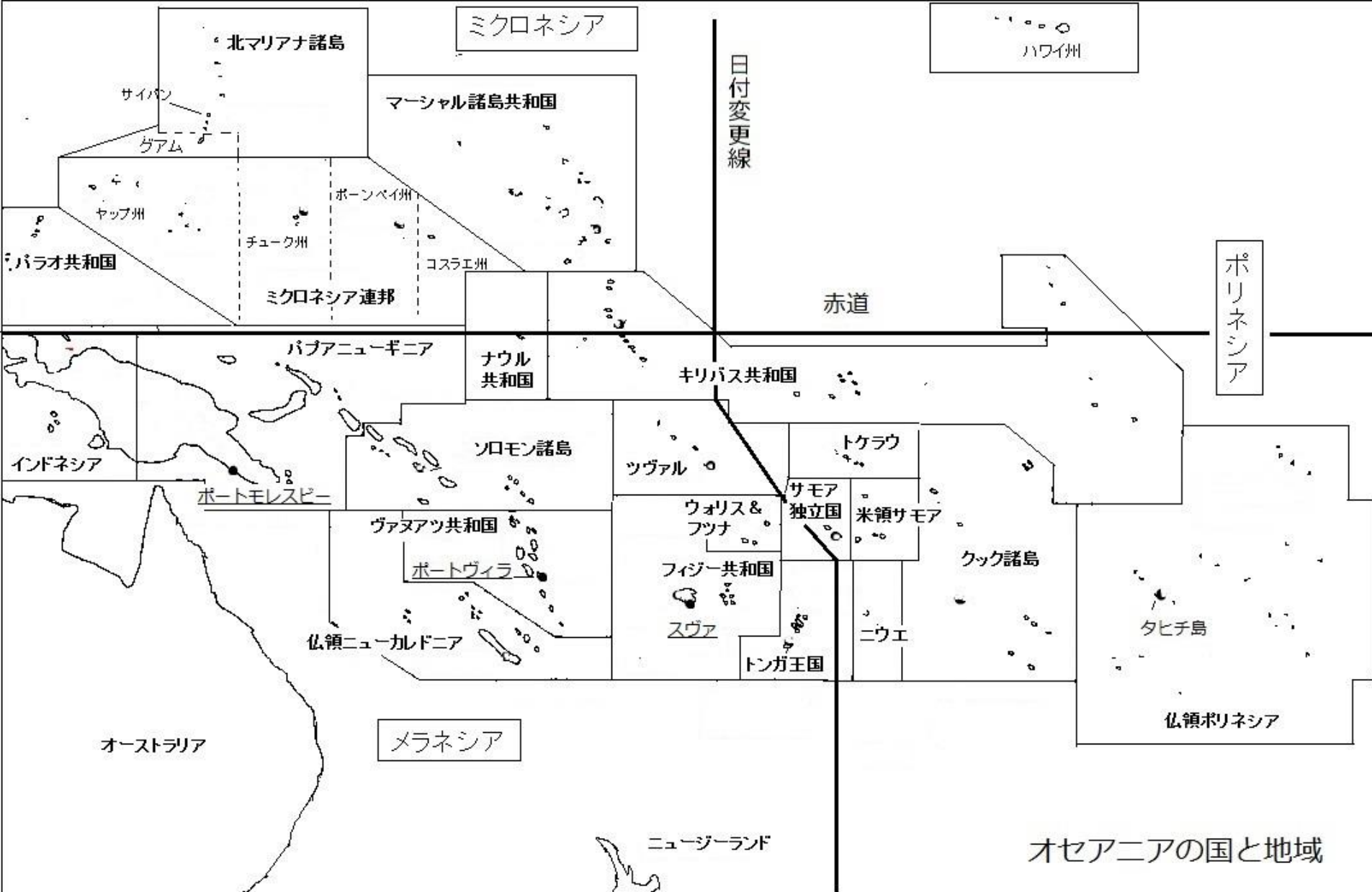




自然環境と共に生きる

オセアニアの人々と暮らし



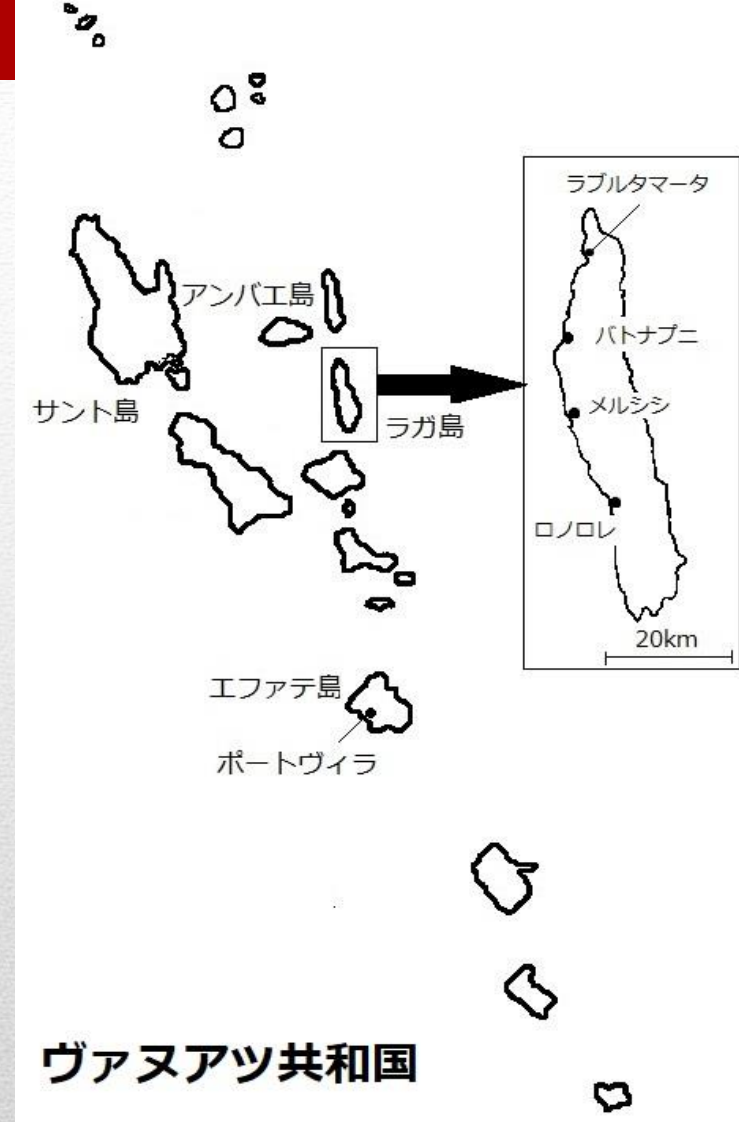
オセアニア

- ラガは、野生の島、人間の
手が入ったことのない一種
の失樂園
- ヴァヌアツでは、古代がつ
ねにそこにある
- 時が人間が住みついた第
一章で止まっている

ル・クレジオ

『ラガー見えない大陸への接近』

3





メルシシ村1



メルシシ村2

- 自分たちのいる進化した西洋社会を「文明」、進化の遅い社会を「未開」と名付ける
- どの社会も西洋社会と同じようにテクノロジー重視という基準で発展するに違いないという前提で、世界中の諸社会の発展段階を策定
- 土器や鉄器がなく石器しか使っていない社会があれば、進化が極めて遅く、まだ古代の状態に留まっているとする一方、産業革命を終えた西洋は進化の頂点にあると考えた

社会進化主義

- 現実には、世界では想定された「進化」が生じてはいない
- ラガは、フランスが過去に通過してきた「古代」と同じ文化、言語、価値観を持っているわけではない
- ラガでは、現在石器も土器も使わずに、輸入品としての鉄製品を使用している ➡ やがて自然に産業革命がおこって技術発展をとげる
- 「未開から文明へと進化すると想定した進化主義」
➡ 「自分たち文明世界とそれと対峙するイメージの古代」
- 古代/失樂園＝自分たち文明が遠い過去に失ってしまった樂園

古代イメージの出現

- 進化主義は自文化中心主義的な見方によって成立
- ex. 開発論の起点: 未開社会もやがては我々のような文明へ進化する、やがて産業革命を経て大量消費社会へと進化する、それを促進する
- 文化相対主義
 - 異文化を自文化の論理から考えてはいけない
 - それぞれの文化は独自の価値観を持っており、それらに優劣や高低はない

進化主義への批判

- 最貧国＝後発開発途上国 (Least Developed Country)
- (1) 一人あたり国民総所得992米ドル以下
- (2) 栄養不足人口の割合、5歳以下乳幼児死亡率、中等教育就学率、成人識字率
- (3) 外的ショックからの経済的脆弱性
- 最貧国→経済的に発展しないから飢えが生まれる→飢えを撲滅するために、開発が必要＝近代的な論点、経済を導入する必要 ＝ 進化主義的
- 最貧国に指定されているヴァヌアツでは飢えない

最貧国

- 村落＝自給自足生活→現金の必要性

→都市での労働＝臨時雇いなどで現金取得



村落に戻る

＝自給自足の生活



都市に定住



仕事の終了、無職→現金不足、貧困



村落に戻る＝自給自足の生活

独自の価値観に支えられた村落生活

飢えのない貧困





BREWERY
BAR & RESTAURANT

JETSKI HIRE
Iririki

TOYOTA

14652

124100





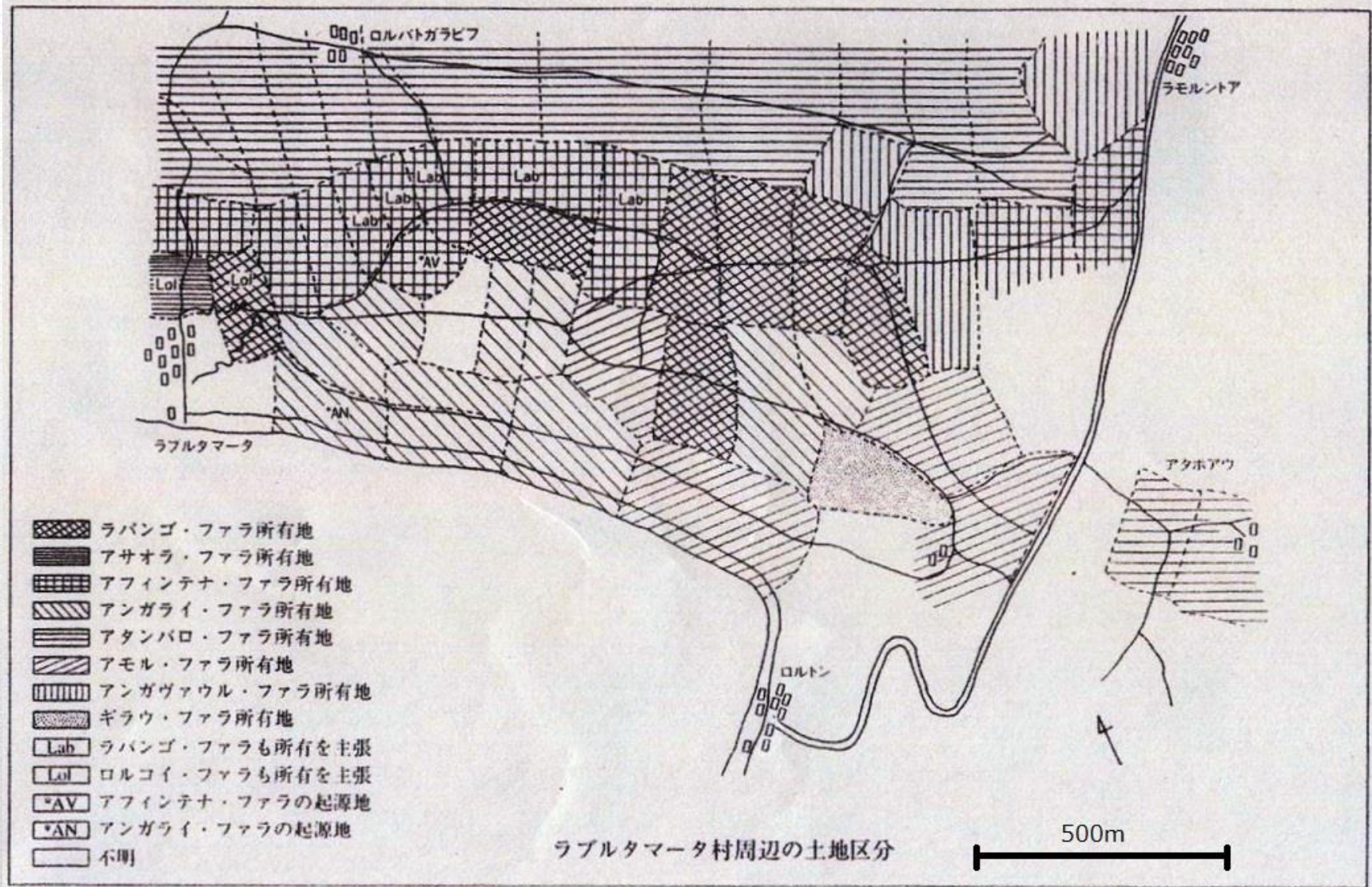


- タロイモ、ヤムイモなどを主食とする農耕民、家畜として豚、鶏、犬
- 人口と土地(農地)のバランス
- 土壌の養分を保護する焼畑耕作
- 自然の産物の徹底的利用
- ゴミにならないゴミ
- 収穫をコントロールする「タブー」
- ラガにおける「豚を殺す儀礼」と殺しすぎない工夫

自然環境との共生



タロイモとヤムイモ



土地利用の仕組み





ココヤシ



- 燃料としてのココヤシ
 - ココナッツの殻
 - ココヤシの罌
 - ココナッツの胚乳＝食料、乾燥させるとコプラ
- ココナッツ・ミルク 胚乳をしぼったもの
- ココナッツ・ジュース 若いココナッツの「胚乳の素」
- ココナッツ・オイル ココナッツ・ミルクを煮詰める
- 葉 籠やゴザを編む
- 繊維 濾過紙

ココヤシの利用

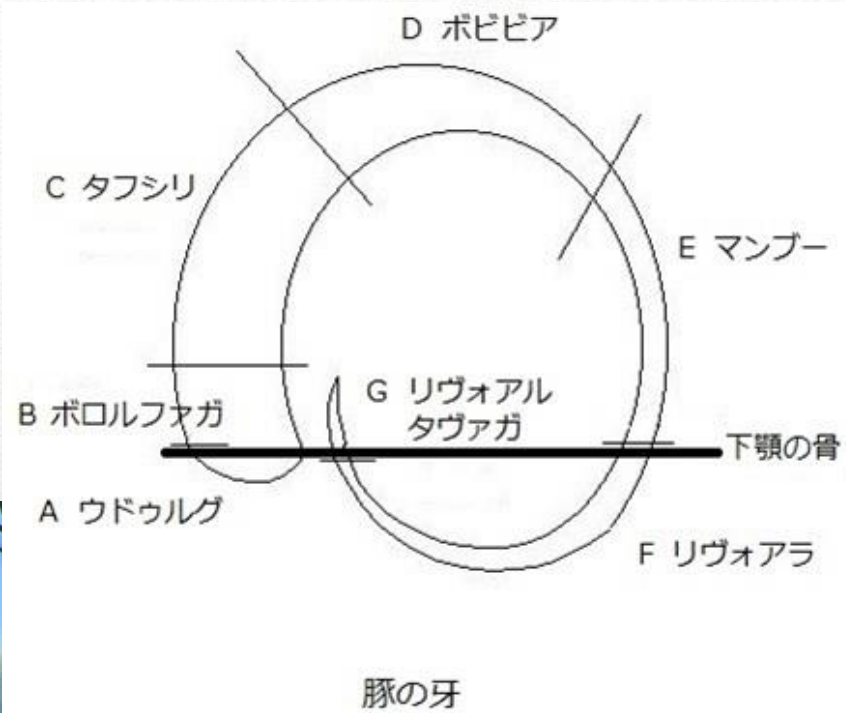




豚を殺して地位を上げる

嘗ての階梯の名称	階梯に入るために殺すべき豚		その他必要とされる豚の撲殺		現在の階梯の名称	階梯に入るために殺すべき豚		その他必要とされる豚の撲殺	
	等級	数	等級	数		等級	数	等級	数
タリ	B	1			タリ	B	1		
モリ	C 又は D	1	何でも可	10*	モリ	C 又は D	1		
ウドウ	E 又は F	1			リヴシ	E	1	何でも可	10*
リヴシ	何でも可	10							
フィラ	C 以上	10	何でも可	100	フィラ	F	1	E	10
			C 以上	10				何でも可	100
			D	10					
			E**	10					
			E**	10					
			F	10					
			G	10					
			B 以上	100					
			C 以上	100					

*この場合の「豚十頭の撲殺」は特にセセと呼ばれる **「等級 E の豚十頭の撲殺」。等級 E は牙の小さめのリフバンバンナと牙の大きめのマンブーに区分されており、表の上側は前者の撲殺、下側は後者の撲殺となる





徽章の購入







年	総戸数	電気照明使用世帯	料理にガス+電気使用世帯	水供給の種類別世帯		
				個別水道	共同水道	タンク
1979	3,284	1,551(47.2%)	?	1,901*	1,350**	?
1989	4,080	2,192(53.7%)	2,872+ 24(71.0%)	2,228	1,279	352
1999	6,155	3,858(62.7%)	3,752+127(63.0%)	2,935	1,746	640
2009	9,054	7,680(84.8%)	4,078+345(48.9%)	4,082***	3,746	708
				4,357	3,971	95

*区分は屋内水道。**区分は屋外水道。***2009年の上段は飲み水、下段は洗濯の水

(Vanuatu National Statistic Office 1983:364,369, 1991a:108,109, 2000b:134,138,140, and n.d.:173,175,181,183 より作成)

- ・ガスよりも薪、電気の節約、水の節約
- ・伝統(カスタム)に大きな価値を置く = 低消費生活
- ・村落での生活＝伝統の象徴
- ・伝統重視→理想型として「村落に近い都市生活」
- ・環境との共生、スローライフ＞都市の利便性

大量消費への嫌悪



石蒸し焼き料理

- 「脱伝統」の傾向＝人々の言う「西洋化」の進行
- 開発、産業化への希求
 - ・開発→環境破壊→持続可能な開発→幻想？
- 過剰な森林伐採、換金作物の生産 → 自然環境の変化
- 科学洗剤による海岸汚染
- 地球温暖化による海面上昇

グローバル化：「伝統」の変化

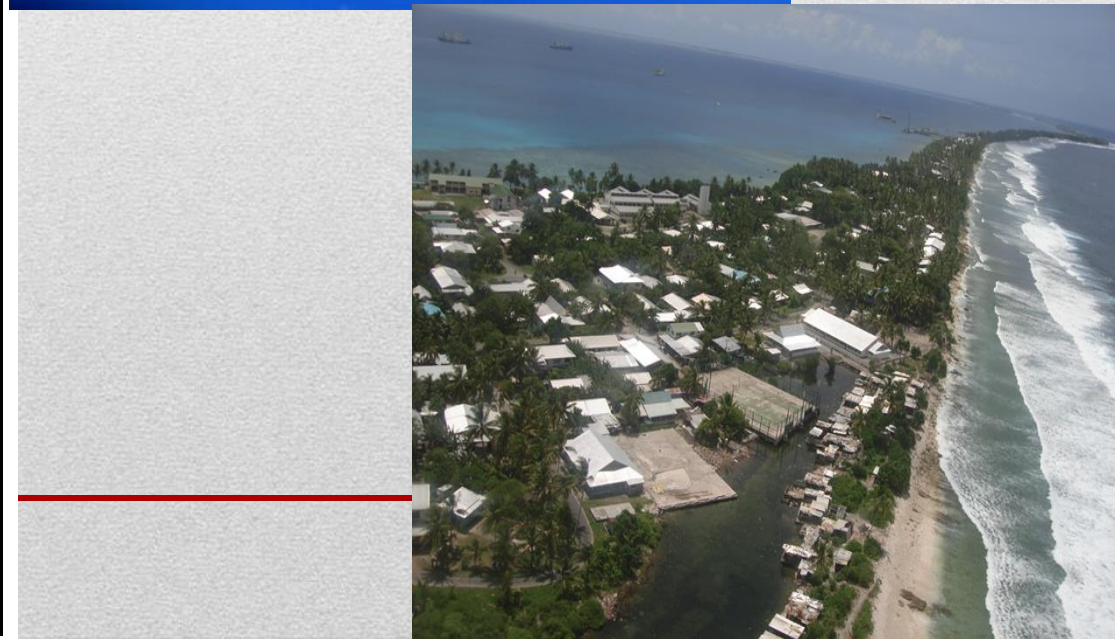
31



—



ツバレ











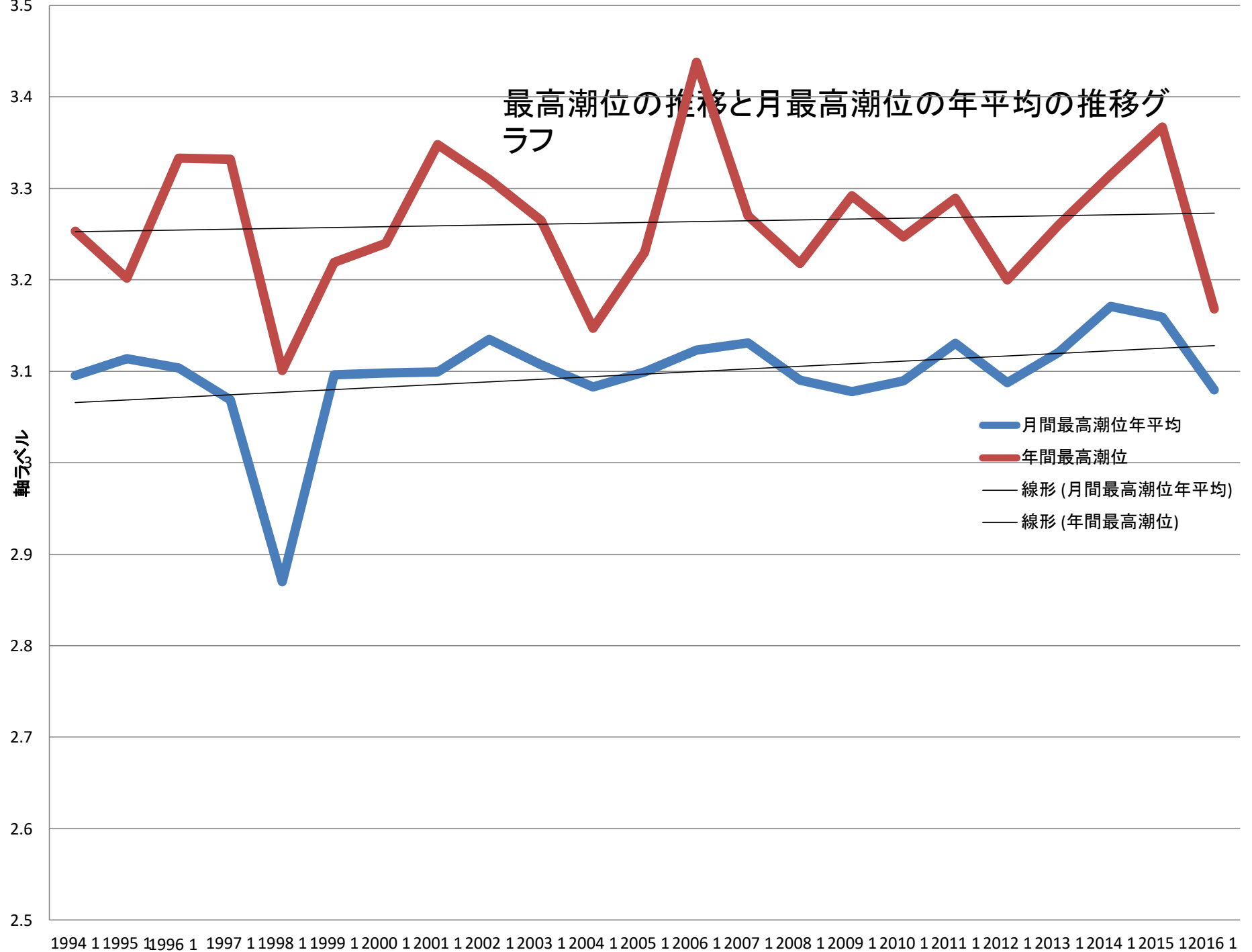
海岸浸食



潮位が+3m程度



最高潮位の推移と月最高潮位の年平均の推移グラフ





遠藤秀一著『ツバル』より

神保哲生著『ツバル』より

- 先進国 → 発展途上国 へという流れ
- 先進国は、本来スローライフを実現していた社会に、大量消費社会を導入し、環境破壊をもたらしているが、自らは大量消費への反省からスローライフ、環境保護の重要性を訴える
- 先進国 vs 途上国 = 文明 vs 未開

先進国と途上国
